



優秀賞

私が座っていた席の前に立っていた母娘様へ 本当に助かりました!1 東京都町田市 Yさん(57歳)
あざみ野であった男の子へ 小さな救世主1 愛知県名古屋市 Mさん(35歳)
電車の中で隣に座っていた女性へ 忘れられない、ありがとう2 東京都品川区 Sさん(49歳)
通りすがりの、母と同じくらいの歳の女性へ 最高のツーショット2 神奈川県横浜市 Hさん(30歳)
あざみ野駅のトイレ清掃員さんへ あの時の感謝3 東京都町田市 Gさん(50歳)
東急バスの運転手さんへ 介護士の私が体験したありがとう3 神奈川県川崎市 Sさん(34歳)
高校生の男の子へ 思いやりを行動に4 東京都世田谷区 Iさん(41歳)
車内で会った女性へ 不自由な幸せ4 埼玉県所沢市 Mさん(38歳)
東急線の車掌さんへ 覚えてくれててありがとう5 神奈川県横浜市 Nさん(37歳)
通りすがりの子連れのお母さんへ 息子を助けてくれた通りすがりのお母さん5 神奈川県川崎市 Sさん(38歳)
多摩川線の運転手さんへ 2年半ぶりの「ひさしぶり!」6 東京都大田区 Iさん(54歳)
あの時前に座っていた真方へ 今でも混んでいる電車内で 子供を見かけると思い出します6 東京都品川区 Kさん(57歳)
二子玉川公園でゴミ拾いをするおじいちゃんへ ゴミ拾いをしてくれるおじいちゃんへ7 東京都品川区 Kさん(26歳)
電車で隣に座っていたおばあさんへ あの日の夕焼け7 東京都町田市 Iさん(22歳)
あの日のお兄さんへ 「だれか! 落としましたよ!」8 東京都大田区 Yさん(29歳)
坊やとパパへ かわいい坊やとすてきなパパ8 東京都大田区 Sさん(78歳)

東急グループの全社員の皆様へ 大雪の朝の頼れる力持ち!9 神奈川県横浜市 Sさん(63歳)
たまプラーザ駅、その他の駅の駅員の皆さまへ 楽しいお出かけ、来ています9 神奈川県横浜市 Mさん(53歳)
駅員さんへ 「未来へのエール」10 神奈川県横須賀市 Sさん(31歳)
たまプラーザ駅に関わる全ての優しい方々へ 入試の日の落とし物10 神奈川県横浜市 Tさん(47歳)
T君へ 社会人になったT君へ11 神奈川県横浜市 Kさん(57歳)
戸越銀座駅の駅員さんへ はじめてのおつかい11 東京都品川区 Uさん(33歳)
緑道の掃除を自然とやっていた方々へ 自然と増えている掃除の仲間12 東京都目黒区 Sさん(57歳)
世界一おいしいチャーハンを作る大将へ 見知らぬ土地で独りぼっちだった 私に居場所をくれてありがとう12 東京都大田区 Mさん(23歳)
立会川緑道の桜へ 11年目もありがとう13 東京都目黒区 Yさん(44歳)
父親へ 永遠のファザーコンプレックス13 東京都品川区 Oさん(61歳)
お水を買ってきてくれた学生さんへ お水を買ってきてくれた学生さん14 神奈川県横浜市 Sさん(42歳)
東急の車掌さんへ 見知らぬ街にやってきて14 東京都品川区 Wさん(43歳)
北千束駅の駅員さんへ いってきます15 東京都大田区 Nさん(25歳)
東急バスの運転手さん達へ よく見る見知らぬ方々へ15 神奈川県横浜市 Sさん(26歳)



私が座っていた席の前に立っていた母娘様 へ
東京都町田市 Yさん(57歳)

本当に助かりました!

ステージを終えて飛び乗った半蔵門線。

表参道から中央林間行きの急行。

あの時は運良く、すぐ座れて衣装ケースとブーツケースを足下に置き抱えて…途中からウトウト眠ってしまったようで…うっすらと降りる予定の駅のアナウンスで目が覚めて、駅に到着しガラッとドアが空いたので慌ててホームへ降り立ちました。その瞬間、電車の中から「コレ、忘れてる!」という合図が!

持って降りたつもりのブーツケースでした。

アー、どうしようと、思った直後、ドアが閉まって電車が走り出したので、落胆していると、前に私のブーツケースを持った女性が!なんと、私に渡すために降りてくれていたのです。

二人連れのはずで、私が心配そうな顔をしていると「大丈夫、次の駅で待ってるから」と言って、次の電車を待って、私はこの駅から帰宅。

簡単な会釈だけで分かれてしまいました。

何もお礼出来ずに、今も温かい親切に感謝の想いが残っています。

あざみ野であった男の子 へ
愛知県名古屋市 Mさん(35歳)

小さな救世主

出張先のあざみ野駅で私は迷っていた。

次の目的地、旗の台への行き方を路線案内図の前で探していると、「だいじょうぶ?」私の右下から可愛い声がした。年長さんくらいの男の子が私を見上げている。「次はどこで乗り換えたらいいのかなって見ていたのよ。心配してくれてありがとう。」そう言うと、男の子は「ふうん」と言って、切符を買っているお母さんのところに走っていった。

私はもう一度路線案内図に視線を戻す。久しぶりのハイヒールで足は痛いし、荷物は重い。集中して路線案内図を追えずにいると、「どこまで行くんですか?」後ろから声がした。

さっきの男の子がお母さんを連れてきてくれたのだ。「旗の台まで…」そう言うと、お母さんは「だったら、溝の口で乗り換えだから…」と丁寧に説明してくれた。

何度もお礼を言って別れた時、男の子は嬉しそうに手を振ってくれた。

疲れ切ったからだも心も、一瞬で元気になった。

彼は私の小さなヒーローだ。



電車の中で隣に座っていた女性 へ
東京都品川区 Sさん(49歳)

忘れられない、ありがとう

あなたにお会いしたのは13年ほど前でしょうか。
3歳の長男を真ん中に電車の3人席に座っていましたね。
素敵な方だなと思っていたところ、
息子が突然大量嘔吐。
その頃ノロウイルスが流行っていて、私の頭の中は
一気に色々な気持ちでパニックになりました。
持っているあらゆるもので綺麗に拭こうと慌てている
私に、あなたはさっきまでと変わらぬ優しいまなざし
でご自身のティッシュを渡してくれました。
私達の周りから少しずつ乗客が離れていく中、
あなたはずっと変わらずそばにいてくれましたね。
それがどんなに心強かったことか、
どんなに心が温かくなったか、
今でも昨日のこのように思い出されます。
本当にありがとうございました。
私は今、子供に携わる仕事をしています。
あの時の電車に乗って。あなたのような素敵な女性
に少しでも近づいているのでしょうか。
コロナ禍ですがお元気ですか？
またどこかでお会いできたら嬉しいです。

通りすがりの、母と同じくらいの歳の女性 へ
神奈川県横浜市 Hさん(30歳)

最高のツーショット

一歳の息子に、「はじめての桜」を見せたくて
降り立った目黒駅。お祭りがコロナで中止になっても
なお周辺は賑わっていて、ベビーカーを押しながら
川沿いを歩くのは厳しそうでした。
「せめて息子と桜の写真を。」と夢中でシャッターを
切り、その場を立ち去ろうとした時、「あの、」と私の
母親くらいの女性の方に声を掛けられました。
「邪魔だったかな。」と思わず身構える私に聞こえた
のは、息子と私の写真を撮ってくださいるという
温かいお言葉。「一番傍にいますはずなのに、
なぜか子どもとの写真が少なくなっちゃうのよね。」
と言って撮ってくださった、満開の桜の前での息子
とのツーショットはリビングの一番目立つ位置に
大切に飾っています。
コロナ禍の声を掛けるのもためられるような
状況で、心に寄り添うような言葉を掛けて
くださったこと、とても感謝しています。
いつか桜の前にいる親子を見かけたら、
私もあなたと同じことをしたいです。



あざみ野駅のトイレ清掃員さんへ
東京都町田市 Gさん(50歳)

あの時の感謝

彼女はもう覚えていないかもしれません。

何年も前の出来事です。

私はいらないと言ったのに実家から色々食べ物を持たされて帰宅途中の電車の中でしっかりと閉じていないタッパーやビニール袋から水分が出たせいで紙袋の底が破れ私の白いズボンが醤油で汚れてしまった事がありました。

慌てて途中下車をしてトイレに駆け込んだのが「あざみ野駅」でした。半泣きでハンカチを濡らし、ズボンのシミ抜きをしていると、お掃除の女性がスッとペーパータオルとビニール袋を下さいました。

「これを使って。破れた袋はココに捨てて行っていいからね」と一言話すと何も無かった様にトイレトペーパーの補充を始めました。

本当に困っている時にスッと手を差し伸べてくれた事、本当に涙が出ました。

あれから何度か探したのですが会えませんでした。

もう数年が経ちましたがあざみ野駅を通る度に思い出しています。

「あの時は本当にありがとうございました。」

東急バスの運転手さんへ
神奈川県川崎市 Sさん(34歳)

介護士の私が体験したありがとう

以前、担当したおばあちゃんが散歩中に必ず寄る東急のバス停がありました。

私たちはバス停のベンチに座っているだけで、乗車しないことを運転手さん伝えると大抵の方は怪訝そうにバスを発車させるのですが、そのなかに必ず手を振って挨拶してくださる運転手さんがいらっしゃいました。

何度かお会いするうちに、いつしかその運転手さんがおばあちゃんの推しメンとなっていたので、今日は来るかな？次は会えるかな？と日々の楽しみとなっていました。

他界された旦那様が生前、バスで会社に通っていたらしく、おばあちゃんはバス停までお見送りをされていたそうです。

あの温かい挨拶の時間は、当時を思い出していたのではないかと思います。暫くしておばあちゃんが亡くなり、自然とバス停に行くことはなくなってしまったのですが、運転手さんの優しい対応に今「ありがとう」を伝えたいです。その運転手さんがどこかで元気にご活躍されていますように。



高校生の男の子 へ
東京都世田谷区 Iさん(41歳)

思いやりを行動に

あの時、あなたが咄嗟に取った行動には、学ばせてもらう事が多かったです。私よりもずっと年下なのに、なんて紳士的な振る舞いの出来る高校生だろうと思いました。

今頃、きっと素敵な大人になっているのだろうと、田園調布駅を利用する度に思い出します。

駅のホームから改札へ上がるエレベーターは満員状態で、そこにベビーカーを押した女性が見えました。

すると、あなたは友人に「俺たちは乗るべきじゃない」と言い、エレベーターを降り、女性へ譲りました。

その場にいた皆が、思わず「ありがとう」と言いたくなった瞬間でした。

私もあなたの行動を見習って、思いやりを行動に移すことを心掛けています。

あなたがきっかけで、次に私がそれを真似して、また誰かが真似をして、どんどんと東急線に思いやりとありがとうがあふれていくと思います。

そんなきっかけを作ってくれたあなたに
今も感謝しています。

車内で会った女性 へ
埼玉県所沢市 Mさん(38歳)

不自由な幸せ

東急多摩川線で会ったお姉さんへ。

ご無沙汰しております。先日は車内で助けて頂き、ありがとうございました。

ちょうど朝のラッシュで車内が混み合っていた時でした。予期せぬ急停車に車内は騒然。

私があなたに『わたしは耳が聞こえません。』

いま電車はなぜとまっているのですか』とスマートフォンの画面を見せると『ポイント故障で復旧まで1時間かかるそうです』と教えてくれました。

さらに迂回ルートバス停までついて来てくれて。ちょうどその日手術を控えていた私には

青天の霹靂でした。おかげで手術は大成功。

今は少し耳が聴こえるようになりました。

もし耳が聞こえたらこんなに人に迷惑をかけずに済んだかもしれません。

でも不自由の中でつかんだ幸せもあります。

それがあなたとの出会いでした。お姉さん、

あの日お礼に渡したバラの花束を覚えていますか。

あの花言葉は「ありがとう」です。いつか直接言える日が来るまでどうか忘れないで下さい。



東急線の車掌さんへ
神奈川県横浜市 Nさん(37歳)

覚えてくれてありがとうございます

1997年の夏、当時小学6年の私は東急線スタンプラリーに参加した。

友達と3日間で制覇する強行スケジュールだった。たまたま後方車両におり車掌さんと話す機会があった。私が名前は?と聞くとあだ名で答えてくれた。業務で忙しい中、対応頂き嬉しかった。

1週間後、残りの駅を制覇するため、大井町線を乗車したところ、偶然お会いして会話した。車掌さんの笑顔がとても印象的だった。

4年後、私は東急線沿線の私立高校に入学した。入学して1ヶ月後、たまたま後方車両に乗っていたら、偶然、前に話をした車掌さんだった。終点の駅で勇気を振り絞り当時のことを話したら覚えてくれていた。

みんなヤンチャだったね!私のあだ名聞いて盛り上がったでしょと当時の出来事を話してくれた。

僕のことを覚えてくれて

本当にありがとうございます。

大人には些細な出来事ですが、

子供にとっては最高の思い出でした!

通りすがりの子連れのお母さんへ
神奈川県川崎市 Sさん(38歳)

息子を助けてくれた通りすがりのお母さん

きっとあの時のあなたがこの手紙を読んでくれると信じて…

1年程前のある日、自宅最寄りの鷺沼駅へ1人で向かった息子から「転んで動けないよ」と泣きながら電話がきました。急いで駅へ向かうと、膝に絆創膏を貼っています。

「その絆創膏どうしたの?」と聞くと

「通りすがりの小さい子を連れたお母さんが近くで買ってきてくれて貼ってくれた」と言うのです。

私は辺りを見渡しましたが、

あなたは見つかりません。

私は心の中で何度も「ありがとうございます」と言いました。

同じ街に住んでいるので、

もしかしたらすれ違っているかもしれません。

あの時のお母さん本当にありがとう。

私はあなたの素晴らしい心遣いを見習って、

これからもこの街で家族とお友達と幸せに

暮らしていきます。あなたにも沢山の幸せが

届きますように。きっとあの時のあなたがこの手紙を読んでくれると信じて…



多摩川線の運転手さんへ
東京都大田区 Iさん(54歳)

2年半ぶりの「ひさしぶり!」

障害がある息子は中3までは電車通学をしていたので、平日は毎日多摩川線に乗っていた。

運転席と運転士さんがとにかく大好きで、できるだけ一番前に乗り込み、最寄り駅で降りたあとは、運転席の横に陣取り笑顔で大きく手を振っていた。中学卒業後はバスでの通学・通所になったため、電車に乗る楽しみは週末だけになっていたが、コロナになってからのこの2年半は

一切電車に乗らず、お出かけは全て車でしていた。お天気に恵まれた10月の土曜日。

我が息子は2年半ぶりに電車でのお出かけをした。あまりの嬉しさからちょっと周りの目が気になるほど大声ではしゃぎ大喜びをしていた。

帰りに最寄り駅のホームで降車後いつものように手を振る準備をしていると、運転士さんがシェードを下げ「ひさしぶり!」と声を掛けてくれた。

ああ息子の事を覚えていてくれた運転士さんなんだ、と驚き感激し胸が熱くなった。

この街で見守っていただき
本当にありがとうございます。

あの時前に座っていた貴方へ
東京都品川区 Kさん(57歳)

今でも混んでいる電車内で 子供を見かけると思い出します

あの日電車内は少し混んでいました。

幼い娘と私は、押されて貴方の前のつり革に
掴まりました。私は貴方を見た瞬間

「嫌な人の前に立っちゃったな」と思いました。

なぜなら、金髪・鼻ピアスで腰座りをしている貴方に悪い印象しか持てなかったからです。しばらく乗っているといつも電車の揺れでフラフラする娘がふらつかずに立っていることに気づきました。見ると、娘は片手で貴方の膝にしっかり掴まっていて、貴方は両足で娘をガードしてくれていました。

貴方は気づいていたでしょう。

この子の親が自分の事を外見だけで「嫌な人」として見ていることを。それでも貴方は娘に危険がないよう、しっかり支えてくれていました。

駅に到着し、降りる貴方は娘に笑顔で小さくバイバイをしてくれました。今でも混んでいる電車に乗るとあの時のことを思い出します。

そして心の中で思います。

言葉にしない優しさに気づかせてくれたあなたへ
「ありがとう。」



二子玉川公園でゴミ拾いをするおじいちゃんへ
東京都品川区 Kさん(26歳)

ゴミ拾いをしてくれるおじいちゃんへ

私は二子玉川駅に勤めており、お昼休みによく二子玉川公園でお弁当を食べます。ある日、ゴミ拾いをしているおじいちゃんを見かけました。次の日もその次の日もおじいちゃんはゴミ袋を持って公園に現れました。近くにいらした際に「いつもありがとうございます。」とお声がけをし、ごみ拾いをお手伝いしました。何回かお手伝いをするうちにごみ拾いを始めたきっかけを教えてください、
「以前飼っていたわんちゃんと毎日この公園で遊んでいて、お世話になったから恩返しだよ。わんちゃんが楽しく遊べるようにと思ってね」とおっしゃっていました。おじいちゃんの温かい心に私も元気をいただきました。二子玉川は緑が多く、人間もペットの動物も暮らしやすい街であるため、わたしたち人間がこの環境を守り続けていきたいと思います。このような思いにさせてくれたおじいちゃん、「ありがとう」。この街が多くの方々に愛されるよう、ごみ拾いを続けようと思います。

電車で隣に座っていたおばあさんへ
東京都町田市 Iさん(22歳)

あの日の夕焼け

おばあさん、お元気ですか？
今でも外を眺めながら、電車に揺られていますか。
あの日、私は当時大学生でした。
バイトの帰り道、席が空いていたので、座りながら俯いてゲームに夢中になっていました。
しばらく電車に揺られ、トンネルをぬけた頃、突然隣に座っていたおばあさんに肩をそっと叩かれたのです。「ねえ、見て見て。」
そうして私はゆっくり顔を上げたのです。
瞬間、視界いっぱい飛び込んできたのは燃えるような夕焼け。「邪魔しちゃってごめんなさいね」あなたはそう言って、私は胸がいっぱいで上手く返事ができませんでした。あのとき言いたかったことを、今手紙で伝えさせてください。
「美しいものを共有してくれて、ありがとうございました」夕焼けはもちろん、誰かと分かち合いたいと思ってくれたその心がとても美しいと思いました。
あの日見た夕焼けと隣の席のあなたは、何気ない私の1日を彩ってくれました。



あの日のお兄さん へ

東京都大田区 Yさん(29歳)

「だれか!落としましたよ!」

あの日、私はテストに向けて、電車の中で勉強をしていました。ふと前を向くと、さっきまでお姉さんが座っていた場所に、携帯電話が置かれているではありませんか。(届けたら遅刻するな…)あなたが乗車したのはそんな時でしたね。電話を見るや否や、お姉さんの姿を知りもしないのに、「だれか!落としましたよ!」と叫んで電車を飛び出しました。勇敢なあなたを見て、私は迷った自分を酷く恥じました。数か月後、なんと同じことが起こります。座席に置かれた携帯。もう迷いません。「落としましたよ!」と、私は電車を飛び出しました。結果、持ち主は見つからず、駅員さんに渡すことに。余計なお世話だったかな、と心配になりました。翌日、後輩が声をかけてきました。「昨日電車で見ました!勇気あるなーって。私も真似します!」と。あの日のお兄さん。あなたの行動は、今日も『だれか』のために行動できる、優しい人を増やしています。

坊やとパパ へ

東京都大田区 Sさん(78歳)

かわいい坊やとすてきなパパ

きのう、池上駅の近くであなたとパパに会いましたよね。「このおじいさんどうしてこんなに腰が曲がっているの?」と、かわいい坊やのあなたが道の端を歩いている小さなおじいさんの私を見つけて言いました。いやなこと言われなかなと、どきどきしました。パパがふつうに「たくさんお仕事したからだよ」とこたえました。坊やは「ふーん、たくさんお仕事したから」と言いました。「そうだよ」とパパ。気づかいのできるやさしい人だなあ。でも坊やの背と同じくらいまで曲がった痛い腰がうしろに曲がらないので、パパの顔を見ることはできませんでした。ほっとすると二人は手をつないで先を歩いています。かわいい坊やの小さな背中に、おじいさんを見つけてくれてありがとうと言いました。背の高いパパのうしろ姿にはやさしい言葉をありがとうと言いました。かわいい坊やとすてきなパパにまた会えるととても嬉しいです。その日が早く来ますように



東急グループの全社員の皆様へ
神奈川県横浜市 Sさん(63歳)

大雪の朝の頼れる力持ち!

あれは忘れもしない14年前、
下の子の中学受験の日のことです。
朝起きると大雪で車を出すことも出来ません。
駅までバスで10分の我が家から、どうやって
田園都市線の駅までたどり着くことが出来るか?
「この大雪でバスも止まっているかもしれないが
東急バスに頼るしかない」。
不安な気持ちを抱えたまま長靴を履き、
慣れない雪道を親子で悪戦苦闘しながら
バス停に着き待つこと数分。「バリバリバリ!」と
いう力強い音を立てて向かってくる東急バスの
勇姿が目に入った時の嬉しかったこと!
これで受験できる。
お陰で下の子は無事志望校に合格し、
今では社会人として元気に働いています。
コロナ禍で、「当たり前が当たり前でない」ことが
分かった今だからこそ、
この地域を縁の下で支えてくれている
東急グループの全社員の皆様に
「ありがとう!」と言わせて頂きます。

たまプラーザ駅、その他の駅の駅員の皆さまへ
神奈川県横浜市 Mさん(53歳)

楽しいお出かけ、出来ています

私の母は車いすを利用しており、
外出時は電車を利用しています。
たまプラーザ駅を起点とし、
二子玉川、長津田、三越前等、様々な場所に
出かけられるのは駅員さん皆さまのお蔭です。
事前予約せず突然駅に行っても、いつも快く
応対くださいます。到着駅ではスロープを持って
必ず待っていてくださるのですが、
それってどれだけ大変なことか。
通常業務の合間を縫って、突発の依頼に合わせ
対応くださっているのですよね。
希望の車両があるかどうかを聞いてくれたり、
車いすを押しやすいように先導くださる等、
細やかなお心遣いも嬉しく思っています。
伺ったところ、母のような利用者が
増えてきているとのこと。
限られた人数でのご対応は限界を超えているかも
知れないですね。日頃の感謝をお伝えしたく、
投稿させていただきました。
いつも本当にありがとうございます。



駅員さんへ

神奈川県横須賀市 Sさん(31歳)

「未来へのエール」

駅員さん、覚えていますか？あの日は入学式で、
駅前には新入生で溢れていました。

私もそんな新入生の一人。

慣れないスーツとパンプス姿で、未来へ心を
躍らせていました。しかし、現実には厳しいもの。

大学にはクラスがないため、友達の作り方が
分からなくなってしまったのです。

帰り道、私は靴擦れた足で駅に向かいました。

駅にはもう人だかりはなく、銀のモニュメントが
静かに立っていました。その時ふと、チャージ機の方に
目が行きました。寄って見ると「入学おめでとう！」と
駅員さん手作りの飾りがあったのです。

その温かさに、この駅もこの街も、応援してくれている
のだと感じました。

そして、他の新入生もこれに気が付き、一緒に写真を
撮る事に。写真を送るためにアドレスも交換し、気が
付いたら友達になっていました。

こうして、私の未来にまた光が差しました。

駅員さん、ありがとうございます。

あのエールの言葉は今でも私の心に響いています。

たまプラーザ駅に関わる全ての優しい方々へ

神奈川県横浜市 Tさん(47歳)

入試の日の落とし物

公立高校入試の日の朝。娘はゲン担ぎに

お気に入りのキーホルダーを鞆に付け、

振り子の様に左右に揺らしながら出掛けていった。

それは娘が初めて親元を離れて旅をした時の

お土産で、ふわふわの毛玉にうさぎの耳が付いて
いる、自慢のキーホルダーだった。

そんな大事なキーホルダーを、娘はよりによって

入試の日に、落として帰ってきた。

縁起でもない出来事に、私は居ても立っても
居られず、娘の足跡を辿ることにした。

すると、あったのだ！たまプラーザ駅改札横の

カウンターに、ちょこんと耳をそろえて置かれていた

のだった！試験の結果、併願校への進学が

決まったが、改札を行き交うたくさんの方に

「有難うございました。」と心から頭を下げたくなる

衝動に駆られたのは、人生初めての経験だった。

踏まないように歩いてくれた方、拾ってくれた方、

それを撤去せず温かく見守ってくれた駅員さん、

この駅に関わる全ての優しい方々へ。

改めてお礼申し上げます。



T君 へ

神奈川県横浜市 Kさん(57歳)

社会人になったT君へ

大学で就職支援をしている私のもとに君は
毎週通ってきて、将来の夢を語ってくれましたね。
鉄道マンになりたい、
だから早朝、駅でアルバイトをしている、
いつか運転士になるのが夢と
柔和な表情のなかに志を秘め、君は就活に懸命でした。
「受かりました!」との内定報告に、
ともに涙したことも鮮やかに思い出します。
卒業後、月日が経ったある日、
ターミナル駅のホームで偶然君を見かけました。
キビキビと安全確認をし、電車を見送る君を
しばらく遠くから胸を熱くして見ていました。
(星飛雄馬のお姉さんのように。あ、知らないかな)
温かい眼差しは変わらずも、使命感に満ち、
頼もしく仕事に臨む姿が見れてとても嬉しかった。
ありがとう。あの日、私の夢のリストに
「君の運転する電車に乗ること」を追加しました。君
と私の夢が叶う日を心待ちにしています。
その日まで、またね。

戸越銀座駅の駅員さん へ

東京都品川区 Uさん(33歳)

はじめてのおつかい

戸越銀座駅の駅員さんへ3歳息子の
はじめてのおつかい。それは大好きな
東急線カレンダーを買うことでした。
カレンダー買う!と前日から意気込んでいた息子は、
保育園帰りからむずむず、そわそわ。
さあ、戸越銀座駅の改札口に家族で到着。
遠くから駅員室をチラチラッと見る息子の瞳は
純粹で、気合に満ちていました。
1000円札を右手一杯に握りしめ、一人で窓口へ。
一歩、二歩、三歩。身を乗り出し背伸びして
「かれんだーくーだーさい!」その瞬間、パパママは
目を合わせて「(言えた!!)」はじめてのおつかい。
はじめてのお支払い。やったあー!ー!
自分の背丈ほどのカレンダーを両手に駆け寄って
きた息子は少し火照っており、達成感で満ち溢れて
いました。駅員さんは、やさしい笑顔で私たちに会釈。
一生に忘れることのない息子の体験をありがとう
ございます。
今日もリビングの特等席に飾ってあるカレンダーは、
息子のさらなる成長を見守ってくれています。



緑道の掃除を自然とやっていただけの方々へ
東京都目黒区 Sさん(57歳)

自然と増えている掃除の仲間

都立大学駅前の緑道は2018年の「みどリンク」のお陰で緑豊かになり、多くの街の方に親しまれています。しかし、同時にゴミ問題も発生し、近隣の仲間でゴミ掃除をしています。追いつきません。そんな中、見慣れない複数の方々が緑道を掃除して下さっているのを目にしました。

その方々に話を聞いたのはそれから数ヶ月経ってからになりました。お話ができた3名の方は近所のビルの清掃に横浜から来てくださっている方、三軒茶屋から音楽を習いに来てくださっている方、ちょっと離れた所の会社の従業員の方々でした。皆さん、異口同音に「せっかくの綺麗な緑道が汚れているので、綺麗にしたかっただけなんだ」とお話をしてくださいました。

掃除の大変さを感じていた仲間がどれだけ「ありがとう」という気持ちになったか分かりません。これからも、綺麗な緑道が、多くの方々に愛されていくよう、自然と増えてきている仲間と共に掃除を続けていきたいと思えます。

世界一おいしいチャーハンを作る大将へ
東京都大田区 Mさん(23歳)

見知らぬ土地で独りぼっちだった私に居場所をくれてありがとう

レトロな雰囲気につられて入った久が原の街中華は、大将が一人でお店を回していました。

大将のチャーハンが人生で一番おいしくて、毎日のように通わせてもらいましたね。

大将と常連さんの話に混ぜてもらうようになったころ聞いたのは、すぐその白山神社でお祭りがあり、参加する団体の一つの拠点がこの店であること。しかも大将は「出る？」と誘ってくれたのです。お囃子かな？と思いながら打ち合わせに顔を出してみるとびっくり。神輿を担ぐ会だったのです。

初めての体験でしたが、熱狂の中心にいるのは最高の気分でした。休憩中や打ち上げも、会の方々と一緒に、大将の店でお酒を飲んでワイワイできるのが本当に心地良かった。

そんな大好きなお店は、閉店して10月半ばには取り壊されてしまいました。

今はもうただの更地です。

上京して独りぼっちだった私に、温かい居場所をありがとう。大将！会のみなどと一緒に、今度は別の場所で飲みましょう。



立会川緑道の桜 へ

東京都目黒区 Yさん(44歳)

11年目もありがとう

あの日、確かに、私はあなたに救われた。
あなたに、勇気もらったんだ。2011年3月11日。
未曾有の大震災が日本を襲った日。
コンビニチェーンの本社商品部で働く私は、
その日から毎日、お客様に商品を届けるために、
混乱するシステムと物流に翻弄される日々を送って
いた。TVから流れる放射線量と余震のニュース。
非日常が日常になりかけた頃、
「疲れた」の一言を漏らすのすら憚られ、
長い一日がまた始まったと、ため息とともに玄関の
ドアを開けると、飛び込んできたのは、満面の桜！
何でこんなに咲くまで気付かなかったのだろうと、
不思議に思うのと同時に、こんな時でもちゃんと
桜は咲くんだ、という感動。大げさではなく
「これが生きてるってことなんだ」って実感した。
そして、「日本は大丈夫」だと。
2年前、私は隣町に引っ越した。
だけど、去年も今年も、もちろん来年も。
私は立会川緑道に、あなたに会いに行く。

父親 へ

東京都品川区 Oさん(61歳)

永遠のファザーコンプレックス

ねえ、パパ、40年前の冬、出張で上京してきて
中延の私の部屋に泊まったの覚える？
就職活動の厳しい壁に落ち込んで、顔を見た途端
涙ぐんだ私に「あなたの良さを必要としてくれる
場所は、きっとあるよ。」と言ってくれた。
この言葉、今も大切にしているんだよ。
翌日、箱根へ向かうあなたと
静かな商店街を旗の台駅まで歩いた。
電車待ちする早朝の池上線ホームは冷えたね。
「風邪をひくから、もう帰りなさい」って
何度も言ってくれた。なぜだか別れがたかった。
それは予感だったのか、
3年後、52才という若さで旅立ってしまった。
会えなくなって37年の年月が経ち、
あなたより年上になり、喜怒哀楽を抱えながら
今も東京で暮らしてるよ。
昔の駅舎の雰囲気を残した「木になるリニューアル」
されたホームに今も時折、行くんだ、私。
あの日のパパに会いたくて。
「ありがとう。」を伝えたくて。



お水を買ってきてくれた学生さん へ
神奈川県横浜市 Sさん(42歳)

お水を買ってきてくれた学生さん

今から4年程前、18時頃東急田園都市線に乗っての帰り道、その日は少し風邪をひいていました、車内で急に咳が止まらなくなり、三軒茶屋の駅で途中下車しました。

その日は水分を持ち合わせておらず、ホームの椅子に座って1人顔を真っ赤になりながら咳が落ち着くのを耐えていたところ、16-18歳くらいの学生と思しき男の子が声をかけてくれました。

「大丈夫ですか?お水買ってきましょうか?」

私は咳をしながら、すぐの思いで、学生さんにお金を渡し、お願いしますと声を詰ませながら言いました。彼はすぐに自動販売機で水を買ってきてくれて、私のところに駆けつけてくれました。私に渡すと、じゃ、とすぐに次の電車に乗ってしまいました。

あの時、咳が止まらず、お礼もちゃんと言えずのままでしたが、本当に助かりました。

ありがとうございます。

この手紙が「お水を買ってくれた学生さん」に届くことを願います。

東急の車掌さん へ
東京都品川区 Wさん(43歳)

見知らぬ街にやってきて

いつも子どもたちに手を振ってくれてありがとう。

私達家族は息子が1歳半の頃、東急沿線に引っ越してきました。私も夫も実家は遠方、初めての子育て中で新しい保育園に慣れるだろうかなど不安とともに知らない街へやってきました。

引っ越しの際、近所の方に

「ここは電車がよく見えるから電車好きな子になるよ」と言われた通り、息子は電車が大好きに。

「あ!バイバイしてくれた!」と駅で車掌さんに手を振り返してもらうと大喜びです。

嬉しかったのは息子だけでなく実は私も。

手を振ってもらうと温かい気持ちになって、

この街に受け入れられたように感じていました。

現在6歳になった息子の将来の夢は車掌さん。

こちらへ来てから生まれた3歳の娘と一緒に自宅の襖を少し開けてのぞき「発車しまーす」と

車掌さんごっこをしています。

もちろんこちらへ手を振りながら。

これからも安全第一で、そして子どもたちの憧れでいてください。



北千束駅の駅員さん へ
東京都大田区 Nさん(25歳)

いってきます

中学生からずっと使っている北千束駅。
学校に行くときも仕事に行くときも、
毎日使っています。あの日、いろいろなことが
重なってすごく憂鬱な朝でした。
駅に着いてパスモをタッチしようとしたとき、
駅員さんが改札を通る人全員に
「おはようございます、いってらっしゃい」と
挨拶している声が聞こえました。
会釈している人、急いで走っていく人、
挨拶を返す人いろんな人一人一人に挨拶している
駅員さん。私にも「いってらっしゃい」と
言ってくれました。あんなに憂鬱だった朝なのに、
「今日も頑張るぞ!」と思えたのは、あのときの
駅員さんの挨拶のおかげです。
一瞬で、名前もわからないあのときの駅員さん。
小さい声でいってきますだけ言ったけれど、
あのときはありがとうございました。
今は仕事に行く時間も帰る時間も変わって
窓口はあいていないことが多いけれど、
今度は元気よくいってきます!と伝えたいです。

東急バスの運転手さん達 へ
神奈川県横浜市 Sさん(26歳)

よく見る見知らぬ方々へ

子供が産まれるからと引っ越してきた今までより
新しく少し広い家のそのすぐ側に東急バスの
営業所があります。家の前の道を
毎日とっても多くのバスが通ります。5年経ち、
変わらず毎日毎日たくさんのバスが通ります。
少し大きくなった娘はその度にミニカーに
塗装した特製東急バスを手に窓へと駆け寄って
「バスばいばーい!」と手を振ります。
外でもバスを見かけると立ち止まり、手を振ります。
バスを降りた後も前側へ行って手を振ります。
その時にマスク越しでも分かる笑顔で
手を振り返してくれる運転手さん達、
ありがとうございます。「バイバイってしてくれたよ!
良かったね!」と幼い娘の頭を撫でて、
人との繋がりが希薄なご時世での温かさに
少し触れることができます。
これからも変わらずに公園へ、病院へ、旅行へ…
暮らしの中で何をするにも大事なバスです。
どうかこのご時世東急バスの運転手さん達が
健やかに過ごされますようお祈りいたします。